

# ちゅうごく しこく ちほう 中国・四国地方



地図クイズなど



出雲大社 (島根県)



鳥取砂丘 (鳥取県)



秋吉台の鍾乳洞 (山口県)



厳島神社 (広島県)



みかんの栽培 (愛媛県)



瀬戸大橋 (岡山県・香川県)



讃岐うどん (香川県)



なすの栽培 (高知県)



阿波おどり (徳島県)

写真で眺める  
中国・四国地方



島と島が橋でつながっているから、愛媛県から広島県まで自転車で渡ることができるんだって！



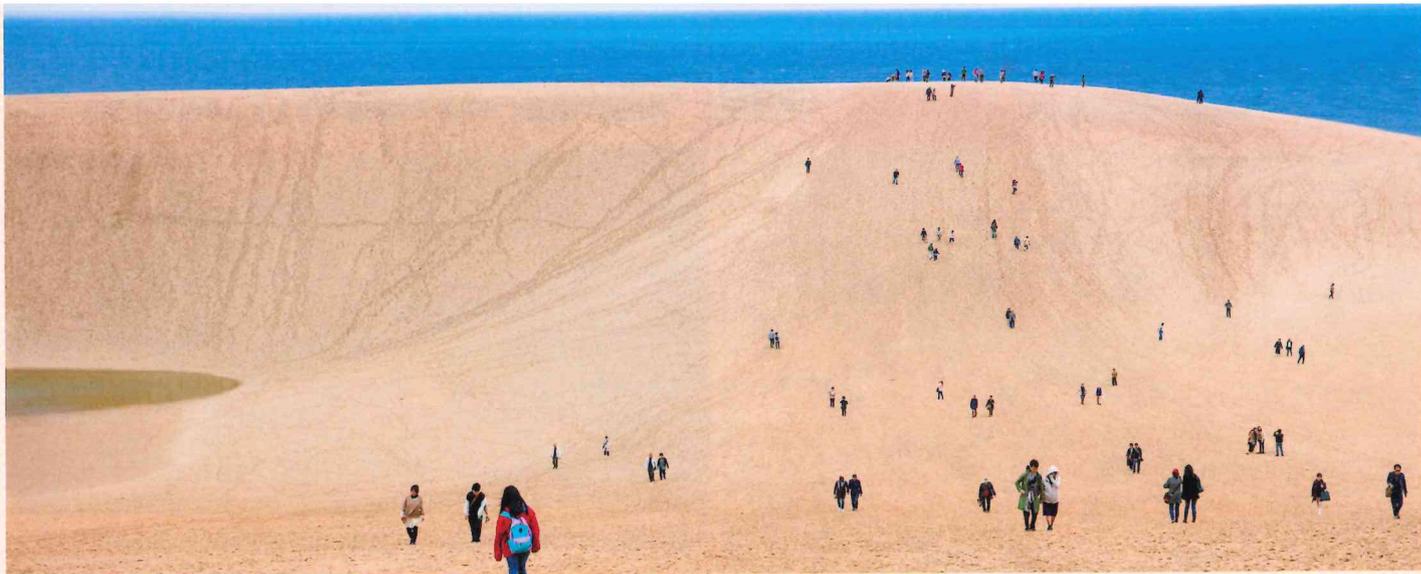
↑ **1** 来島海峡大橋 (上) (9月) とサイクリングをしながら島々を観光する人々 (下) (愛媛県今治市) ➡ p.188



※数字は写真番号を示す。

↓ **2** 世界文化遺産の厳島神社 (左) (2018年) と宮島にある平清盛の像 (右) (広島県廿日市市) 宮島にある厳島神社は、平安時代に平清盛によって改修された、海上交通の安全を祈るための神社です。➡ p.188



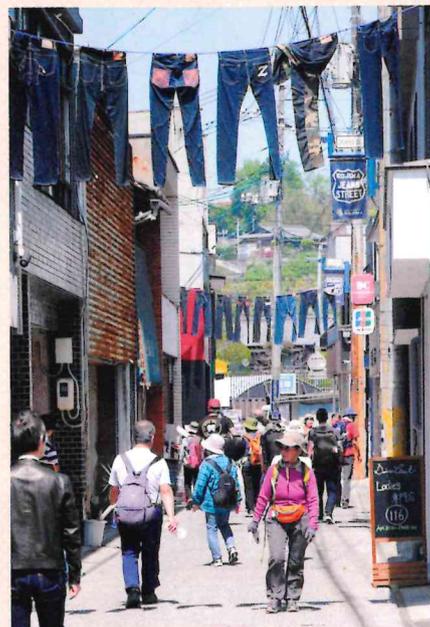


↑ **3** 広大な鳥取砂丘(鳥取県鳥取市、2018年) 日本最大級の砂丘は、標高が50mに達する所もあります。 → p.194



← **4** 夏をいろどる「阿波おどり」(徳島県徳島市、2019年8月) 祭りには県外からも多くの観光客が訪れます。 → p.189

→ **5** 児島ジーンズストリート(岡山県倉敷市、2018年) 瀬戸内では古くから綿織物の生産が盛んです。 → p.190



冬の高知県のビニールハウスでは、どんな野菜が生産されているのかな？



← **6** 海岸に広がるビニールハウス(高知県高知市、2020年1月) → p.193

中国・四国地方の学習を見通そう → p.197の振り返りでは、あなたの考える「写真で眺める中国・四国地方」をつくろう

この節では、写真**1**～**6**のような中国・四国地方の様子が、特に「交通や通信」の視点とどのように関係しているのかを中心に考えていこう。

見直しスライド



# 第2節

# 中国・四国地方

交通や通信に注目して



2節の問い 中国・四国地方での交通網・通信網の整備は、人々の生活や産業にどのような影響を与えているのだろうか。



↑2 四国山地の深い谷を流れる吉野川(徳島県三好市、2019年5月)



↑3 瀬戸の浦と仙酔島(広島県福山市、2016年) 瀬戸の浦は、古くから瀬戸内海の東西交通の要衝として栄え、朝鮮通信使が江戸に向かう際にも利用されました。(小歴公)

↑1 中国・四国地方の自然

## 1 中国・四国地方の自然環境



中国・四国地方は、地形や気候にどのような特徴がみられる地域なのだろうか。

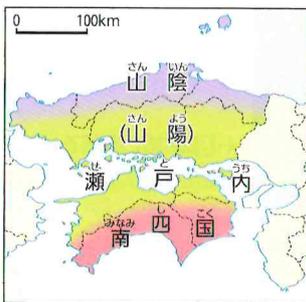
### 二つの山地と三つの地域

面積 37.8万km <sup>2</sup>	九州 11.8%	13.4	近畿 8.7	中部 17.7	関東 8.6	東北 17.7	北海道 22.1
人口 1億2541万人	11.3%	8.6	17.7	16.8	34.7	6.8	4.1

(2023年) (住民基本台帳 人口・世帯数表、ほか)

↑4 日本に占める中国・四国地方の割合

→5 中国・四国地方の地域区分 中国地方のうち、中国山地の南側を山陽とよぶことがあります。



中国・四国地方は、北は日本海、南は太平洋に面し、その間には瀬戸内海が東西方向に広がっています。中国山地と四国山地の山々は、海岸の近くまで迫っている所が多く、広い平野が少ないことが特徴です。この二つの山地を境にして、中国・四国地方は、山陰・瀬戸内・南四国の三つの地域に分けられます。

中国山地は、火山である大山などを除けば、標高1000m前後のなだらかな山が多く、高原では肉牛の飼育や酪農が行われています。一方で、四国山地は、1500mを超える険しい山が多く、吉野川やしまんとがわが作った深い谷がみられます。

瀬戸内海には、大小1000を超える島々が点在しています。そのうち人が暮らしているのは100以上あり、それらの島々の多くは、



↑6雪の積もった大山(鳥取県江府町、2015年1月) 日本海側に位置しているために積雪に恵まれており(→p.145)、西日本のスキー・スノーボード客に人気があります。



↑7讃岐平野のため池(香川県丸亀市、2018年9月) 香川県には、讃岐平野を中心に大小1万2000以上のため池があり(2021年)、その水の多くは農業用水として使われています。



## 土砂災害に備えた広島県の防災教育

防災

中国・四国地方には、土砂災害危険箇所が約15万か所あります。これは、地方別では最も多い数で、水を含むと崩れやすい土質の山の斜面に家が多いことが、その主な理由です。近年では、2014年や2018年に広島県・岡山県などが大雨に見舞われ(→p.147)、大規模な土砂災害が発生しました。広島県では、2015年から『みんなで減災』県民総ぐるみ運動』が行われています。県の職員などが小・中学校に出向いて行われる砂防出前講座では、土石流や崖崩れの恐ろしさ、それらを防ぐ砂防えん堤(砂防ダム)の役割について、模型などを使って学び、日頃から防災意識を高めています。



↑8土砂災害のしくみを学ぶ小学生(広島県三原市、2020年)

3章

日本の諸地域 中国・四国地方

橋によって本州や四国とつながっています。エンジンが発達する前の船は、風の向きや天候、潮の流れなどが頼りだったので、入り江になっている場所には「潮待ちの港」とよばれる港が数多くありました。東西から流れ込む潮流の分かれ目に位置する広島県福山市の

5 鞆の浦は、こうした港の一つです。

### 三つの海と地域で異なる気候

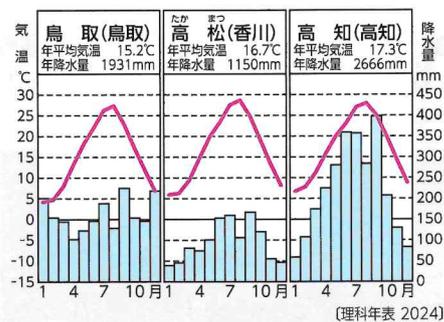
山陰では、冬に吹く北西からの季節風の影  
響で、山沿いを中心にたくさんの雪が積もり

ます。瀬戸内は、夏も冬も季節風が山地にさえぎられるため、晴天の日が多く、降水量が少ない地域です。そのため、水不足になりや

10 すく、古くから農業用のため池や水路が整備されてきました。

南四国は、黒潮の影響を受けるため1年を通して温暖です。また、夏から秋にかけて吹く南東からの季節風や台風の影響を受けて、多くの雨が降ります。吉野川上流にある早明浦ダムは、大雨による洪水被害を抑える役割を果たし、蓄えた水は飲み水や農業用水として

15 利用されるなど、四国四県の水不足の解消にも役立っています。



↑9中国・四国地方の主な都市の雨温図

### 地図帳活用

中国・四国地方の降水量の多い地域が、夏と冬でどのように変化するか、確認しよう。



確認しよう

中国・四国地方の気候に影響を与える山地の位置と名称を、図1や地図帳で確認しよう。



説明しよう

中国・四国地方の気候の特徴を、山陰・瀬戸内・南四国の三つの地域に分けて説明しよう。



橋の開通によって、人々の移動はどのように変化したのかな？

↑1 本州と四国を結ぶ瀬戸大橋(香川県坂出市) 橋は二層構造になっており、上は自動車、下は列車が走っています。

## 2 交通網の整備と人々の生活の変化

2節の問い 中国・四国地方での交通網・通信網の整備は、人々の生活や産業にどのような影響を与えているのだろうか。

① 本州と四国を結ぶ橋の総称で、神戸～鳴門、児島(倉敷)～坂出、尾道～今治の三つのルートがあります。



↑2 瀬戸内海の島々を巡回する診療船「済生丸」(岡山県、北木島、2019年) 瀬戸内海には病院のない島が多いため、船内で診察や健康診断が受けられる診療船が活躍しています。



学習課題

本州四国連絡橋や高速道路網の整備は、離島や山間部の人々の生活と他地域との結びつきをどのように変化させたのだろうか。

### 橋の開通と高速道路網の整備

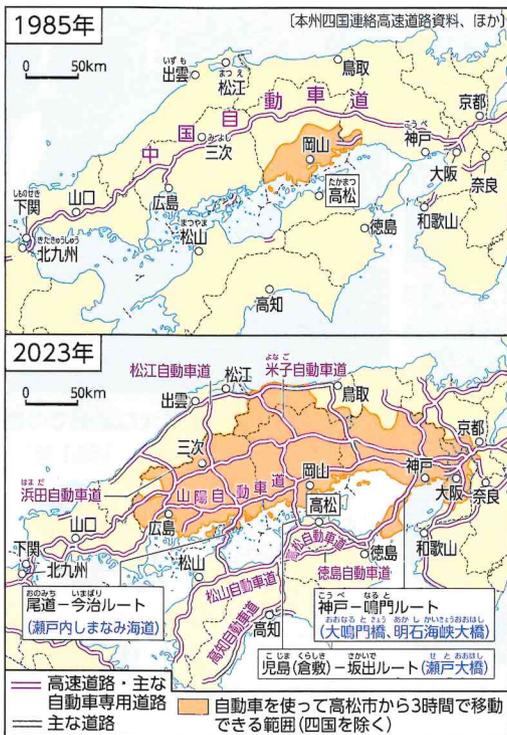
波が穏やかな瀬戸内海では、古くから船を使った海上交通網が発達していました。そのため、都のあった近畿地方や九州地方、東アジア諸国などと結びつき、たくさんの人やモノが船を使って行き来していました。

1970年代になると、中国自動車道や山陽新幹線など、東西方向を結ぶ陸上交通網が整備されはじめ、1988年には本州四国連絡橋の一つである瀬戸大橋が開通しました。これにより、鉄道や自動車とフェリーとを乗り継いで約2時間かかっていた岡山市と高松市間の移動時間は、1時間以内に短縮されました。

その後、本州四国連絡橋のほかの二つのルートが開通したことにより、本州と四国間の移動時間は大幅に短縮されました。また、瀬戸内と山陰を結ぶ米子自動車道や浜田自動車道、瀬戸内と南四国を結ぶ高知自動車道など、南北方向を結ぶ陸上交通網の整備も進み、人やモノの移動が活発になっています。

### 離島の暮らしの変化

橋が開通した瀬戸内の島々では、島民の日常的な移動手段はフェリーから自動車へと変化し、買い物や通勤・通学、通院などの際に、フェリーの時間を気にせず



↑3 中国・四国地方の高速道路網と所要時間の変化

に移動できるようになりました。一方、フェリーの利用者は減少し、航路の多くは廃止されたり、便の数が減ったりしたため、自動車をもたない人や高齢者にとっては、生活が不便になる面もありました。そのため、生活用品を輸送する船や、健康診断のできる医療設備を備えた診療船などが、今でも島での生活を支えています。また、岡山県・広島県・香川県・愛媛県では、離島や山間部での医療を充実させるため、通信網を使って病院と診療所の医師が電子カルテを共有するなどの取り組みが行われています。

### 交通網の発達と結びつきの変化

交通網の発達は、中国・四国地方と他地域との結びつきにも影響を与えています。

徳島県では、大鳴門橋と明石海峡大橋の開通によって、神戸市や大阪市への移動時間が大幅に短縮されたので、高速バスを利用して日帰りで近畿地方に買い物に出かける人々が増えました。その一方で、徳島市で行われる「阿波おどり」などの観光を目的に、全国各地から四国を訪れる人々も増えています。

しかし、移動が便利になった結果、買い物に行く人などが大阪などの大都市へ吸い寄せられたことで、地方都市では地元での商品の売り上げが減少し、経済が衰退するという問題も生じています。



未来に向けて

## 世界とつながる平和記念都市、広島

平和・安全

長崎市とともに第二次世界大戦で原子爆弾(原爆)の被害を受けた広島市は、平和記念都市として世界の平和を求め、核兵器の悲惨さを発信しています。その活動の一つが修学旅行の誘致です。国内各地から来る修学旅行生は年間30万人を超え(2019年)、世界文化遺産に登録された原爆ドームなどを見学したり、被爆者の話を聞いたりしながら、命の尊さや平和の大切さを学んでいます。

→4 平和記念公園で「被爆ピアノ」の話を聞く修学旅行生(広島県広島市、2019年) 広島市では、原爆によって被爆したピアノを修復する活動が行われてきました。修復された「被爆ピアノ」は、国内外のコンサートなどで使用されています。 **小笠公**



↑5 徳島市から神戸市や大阪市などへ向かう高速バスの乗り場(徳島県徳島市、2019年) 淡路島を経由して約2時間で神戸市へ、約3時間で大阪市へ移動することができます。

② 交通網の整備により、地方都市から大都市への買い物客が増えたり、地方都市の支店が閉鎖されたりする現象をストロー現象といいます。



確認しよう

本州と四国を結ぶ三つのルート的位置と名称を、図3や地図帳で確認しよう。



説明しよう

本州四国連絡橋の開通は、四国の人々の生活にどのような変化をもたらしたのか、説明しよう。



↑1 臨海部に集まる製油所や化学工場(岡山県倉敷市、2020年)



↑2 瀬戸内海沿岸の広大な塩田での塩づくり(岡山県倉敷市付近、1951年)

どちらの写真も瀬戸内海の沿岸だけど、様子がずいぶん違うね。



### 3 瀬戸内海の水運と工業の発展

2節の問い 中国・四国地方での交通網・通信網の整備は、人々の生活や産業にどのような影響を与えているのだろうか。

#### 解説① 化学工業と石油化学工業

化学工業は、重化学工業の一種で、化学反応を利用して原料を加工し、さまざまな製品をつくり出す工業のことです。そのなかでも、原油や天然ガスを原料とするものを、石油化学工業といいます。石油化学工業の製品には、プラスチックやタイヤ、化学繊維、洗剤、医薬品などがあります。

#### 解説② 石油化学コンビナート

原油や天然ガスを効率的に石油製品にするために、関連する工場が港湾などの近くに集められた地域のことです。石油製品の生産に関連する工場どうしがパイプラインで結ばれ、原料や燃料などを効率よく輸送できるようになっています。原油の精製から石油製品への加工までが、一つの石油化学コンビナートで行われます。

海運を利用して発達した瀬戸内海に面した地域の工業は、どのように変化してきたのだろうか。

#### 海と埋立地を生かした工業地域

瀬戸内海沿岸では、古くから製塩や造船、綿織物の製造などの工業が盛んでした。第二次世界大戦後は、塩田の跡地や遠浅の海岸を埋め立てた広大な土地が利用できたため、京浜工業地帯や阪神工業地帯などから工場の移転が進み、瀬戸内工業地域が形成されました。

工場が集まる臨海部は、大型貨物船を使って海外から原油や鉄鉱石などを大量に輸入したり、大きくて重い工業製品を国内外に輸送したりするのに便利のため、石油化学工業や鉄鋼、船舶、自動車などをつくる重化学工業が発達しました。例えば、岡山県倉敷市や山口県周南市、愛媛県新居浜市などには石油化学コンビナートが形成され、広島県福山市や呉市などには製鉄所がつけられました。なかでも、倉敷市の水島地区にはさまざまな分野の工場が集まり、石油製品や鉄鋼のほか、食品なども生産されています。

#### 輸送機械工業の発達

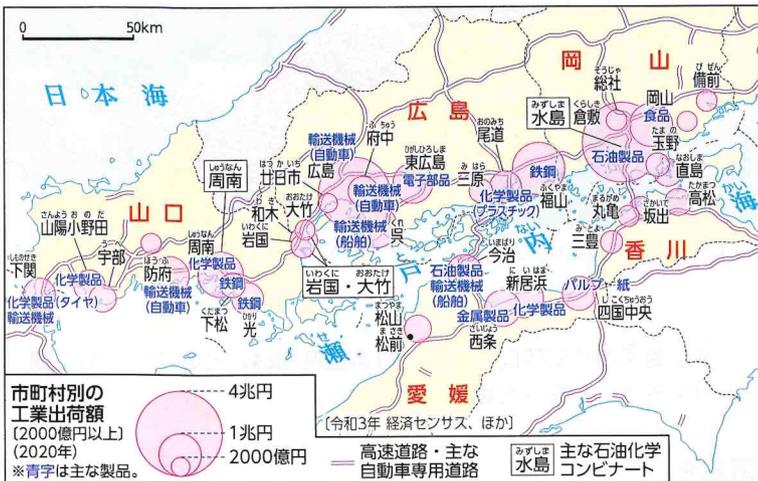
広島市とその周辺には自動車関連工場が集まっています。この地域では古くから工業が発達し、高い技術をもつ人が多かったことが、自動車産業の発達を後押ししました。また、造船業が盛んだ山口県下松市には、造船工場の

瀬戸内海沿岸では、古くから綿織物の生産が盛んで、現在も愛媛県今治市はタオル、岡山県は学生服やジーンズの一大生産地となっています(→ p.185)。

今治市では、第二次世界大戦後のタオル需要の高まりをきっかけにタオル工場が増えました。しかしその後、中国などからの価格が安い輸入品が増えたことにより、生産が落ち込みました。海外に工場を移す企業も現れましたが、今治市を中心とする地域の企業は、高い技術を生かして「今治タオル」という高品質タオルの地域ブランドをつくり、収益を上げる工夫をしてきました。現在では、今治タオルは全国の百貨店などで取り扱われ、海外でも販売されています。



↑3 海外の見本市に出展した「今治タオル」(イギリス、ロンドン)



↑4 瀬戸内工業地域の主な工業と出荷額 **資料活用** 出荷額が多い地域に注目しよう。



↑5 出荷される新幹線の車両(山口県下松市、2022年)  
船に積み込まれた車両は、瀬戸内海を渡って国内外に運ばれます。

跡地を利用した鉄道車両の工場があります。工場では、国内各地を走る特急列車や新幹線、海外向けの高速鉄道などの車両がつくられ、完成した車両はトレーラーや大型貨物船で各地に輸送されます。

地図帳活用

みずしま 水島コンビナート内の製品の流れを確認しよう。

瀬戸内工業地域では、外国との競争に勝ち残るために、機能や性能が優れた製品の開発を進める企業が数多くみられます。

新たな製品開発への取り組み

山口県宇部市や愛媛県新居浜市の石油化学工場や研究所などでは、高い技術が求められる医薬品や医療器具などの開発が行われています。このほかにも最先端の技術を用いた製品の開発が進められており、愛媛県松前町では航空機の機体などに使われる軽くて丈夫な炭素繊維が、岡山県倉敷市では液晶ディスプレイの材料のもととなるフィルムが生産されています。これらの製品は、最先端の工業製品にはなくてはならない存在となっており、日本国内のみならず海外の企業などの生産を支えています。



↑6 医薬品の開発(山口県宇部市、2016年)



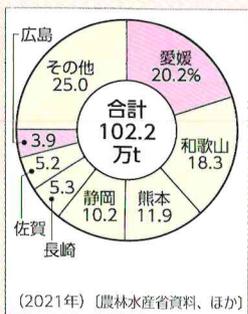
確認しよう

瀬戸内の臨海部で盛んにつくられている工業製品を、図4から三つ書き出そう。



説明しよう

瀬戸内の工業の特色とその変化を、原料・製品の輸送手段や外国との競争に着目して説明しよう。



↑2かんきつ類の生産量



畑はなぜ階段状になっているのかな？

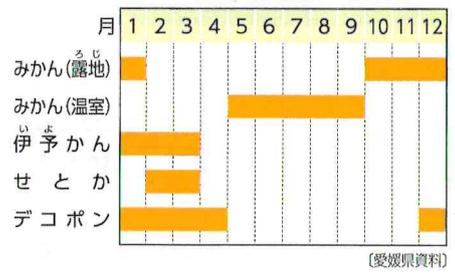
↑1山の斜面に広がる みかん畑(上)と収穫した みかんを運ぶモノレール(右) (愛媛県八幡浜市、2021年12月)

## 4 交通網を生かして発展する農業

2節の問い 中国・四国地方での交通網・通信網の整備は、人々の生活や産業にどのような影響を与えているのだろうか。

1 山の斜面に階段状につくられた畑のことで、太陽の光がよく当たるなどの利点があります。水田の場合には、棚田といいます。

地図帳活用  
①八幡浜市の みかん栽培の様子を確認しよう。  
②高知平野の野菜栽培の様子を確認しよう。



↑3愛媛県で生産される かんきつ類の出荷時期  
資料活用 出荷時期の違いに注目しよう。

学習課題 温暖な瀬戸内や南四国で生産される農産物は、どのようにして競争力を高め、全国へ市場を広げていったのだろうか。

温暖な気候を生かした農業 日照時間が長く、降水量が少ない瀬戸内の気候は、かんきつ類の栽培に適しています。特に愛媛県の南部や瀬戸内海の島々では、みかんや伊予かんなどの生産が盛んです。これらの地域は山がちで、日当たりのよい斜面の段々畑に果樹園が広がる風景がみられます。また、香川県の小豆島では、乾燥に強いオリーブの生産が行われています。

競争力を高める取り組み 瀬戸内では、和歌山県や静岡県などほかの生産地との競争や、1990年代にアメリカ合衆国からオレンジが輸入されるようになった影響などにより、みかんの出荷は大きく減少しました。そこで愛媛県では、品種改良を重ね、伊予かんやせとか、デコポンなど、味や香りがよく、みかんとは収穫時期の異なるかんきつ類を生産することで、ほかの生産地との差別化を図っています。なかには、広島県の生口島や愛媛県の岩城島などのようにレモンの生産に特化した所や、愛媛県伊予市などのようにキウイフルーツなどの栽培を新たに始めた所もあります。

南四国に位置する高知平野では、温暖な気候を生かした野菜の生産が盛んです。夏が旬であるなすやピーマンなどの野菜を、端境

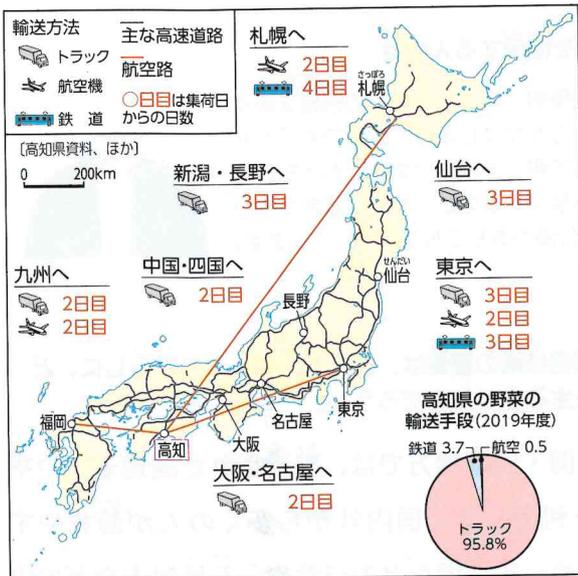
水質のよさを生かした宇和海沿岸の養殖

愛媛県南部の宇和海沿岸に広がるリアス海岸では、たいやぶり、ひらめ、真珠などの養殖が盛んです。この地域の入り江は黒潮が流れ込むため潮の流れが速く、水質がよいのが特徴です。近年では、かんきつ類の果汁を搾った後に残る皮を餌として与える取り組みが行われ、「みかん鯛」や「みかんブリ」などが特産品となっています。

養殖で育てられた魚は、整備された高速道路網を利用して全国各地に出荷されます。なかには、生けすを積んだトラックで、生きた魚を大阪などの料理店に直送する水産会社もあります。



↑4 養殖ぶりの水揚げ(愛媛県愛南町、11月)



↑6 ビニールハウスで栽培されたなすの収穫(高知県安芸市、2016年4月)

←5 高知県の野菜の主な出荷先への輸送手段

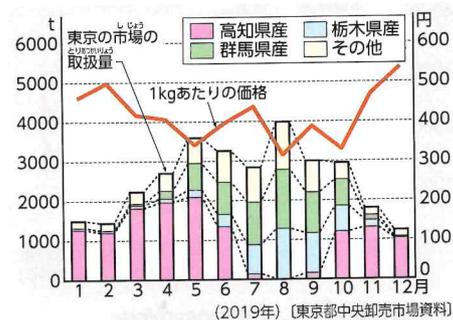
資料活用 高知県からの距離に応じた輸送手段の違いに注目しよう。

期にあたる冬から春にかけて出荷するため、ビニールハウスを利用した促成栽培が行われています。農家は、冬のハウス栽培と夏の露地栽培を組み合わせたり、栽培する野菜の種類を増やしたりすることで、年間を通して安定した収入を得られるように工夫しています。

5 交通網の発達による市場の拡大

瀬戸内で生産されたかんきつ類や南四国で生産された野菜は、以前は船や鉄道で運ばれ、主に大阪など近畿地方の市場に出荷されていました。しかし、本州と四国を結ぶ橋の開通や高速道路網の整備、保冷トラックの普及などにより、現在では、東京や札幌など遠く離れた市場にも、鮮度を保ったまま出荷できるようになっています。

また、岡山県の丘陵地で栽培される白桃やマスカットは、高い品質が評価され、海外でも人気です。鮮度が落ちやすいこれらの果物は、航空機でホンコン(香港)や東南アジアなどに向けて輸出されており、空の交通網を生かした市場の拡大が進んでいます。



↑7 東京へのなすの出荷量と価格 夏が旬であるなすは、冬から春にかけて高値で取り引きされます。

**確認しよう** 中国・四国地方で生産が盛んな農産物を、本文から書き出そう。

**説明しよう** 南四国で野菜栽培が盛んになった理由を、交通網に注目して説明しよう。



↑2 石見神楽の公演 (島根県浜田市)

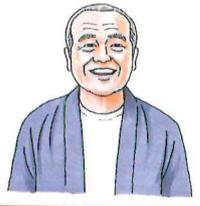


↑1 縁結びの神様として知られる出雲大社 (島根県出雲市、2015年)

交通網の整備は、島根県の観光にも影響を与えているのかな？

**声** 石見神楽を継承する人の話

神楽は、秋の収穫期に自然や神様への感謝を表すために舞を舞ったことがはじまりで、今でも「どんちっち」とよばれて親しまれています。もともとは地元だけの秋のお祭りでしたが、今では週末を中心に、観光客向けの公演があちこちで行われています。



**5** 人々を呼び寄せる地域の取り組み

2節の問い 中国・四国地方での交通網・通信網の整備は、人々の生活や産業にどのような影響を与えているのだろうか。



↑3 島根県を訪れる観光客数の変化



↑4 秋の町並み (山口県萩市、2022年) 現在も城下町の面影を残しています。



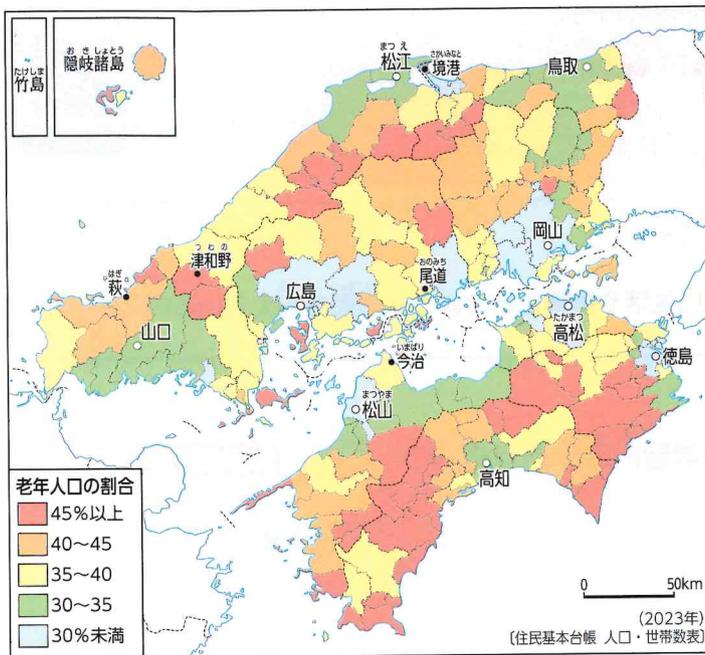
**学習課題** 交通網や情報通信技術の整備は、観光産業や人々の暮らしに、どのような変化を生み出したのだろうか。

**交通網の整備と観光産業**

中国・四国地方では、整備された高速道路や空港を利用して、国内外から多くの人々が訪れやすくなりました。そのため、宍道湖などの自然や、石見銀山などの史跡・文化財、伝統芸能、漫画などの観光資源を生かして観光客を呼び寄せるなど、さまざまな地域おこしの取り組みが行われています。

例えば、「神話の里」といわれることもある島根県には、神話などをもとにした伝統芸能の石見神楽や、長い歴史をもつ出雲大社などがあります。こうした地域は、高速道路などが開通し、交通の便がよくなったため、観光客が訪れやすくなりました。また、江戸時代の武家屋敷や商家などが多く保存されている山口県萩市や島根県津和野町、松江市などにも、多くの観光客が訪れています。

鳥取県には、日本最大級の鳥取砂丘やなしの観光農園、新鮮な魚介類などを求めて観光客が訪れます。また、米子空港から近く、周辺の高速度道路が開通した境港市では、境港駅から商店街へと整備された「水木しげるロード」に、漫画に登場するキャラクターの銅像や記念館、グッズなどを販売する店が立ち並び、漫画を観光資源として生かした地域おこしが行われています。



↑5 中国・四国地方の市町村別 老年人口の割合 **小 鹿 公** 対話 どのような地域で老年人口の割合が特に高いのか、話し合おう。

### 地理プラス 「うどん県」 によろそ!

讃岐うどん<sup>さぬき うどん</sup>で知られる香川県には、瀬戸大橋<sup>せと おほし</sup>の開通や現在の高松空港の開港<sup>たかまつ</sup>によって、全国からうどんを食べに来る観光客が増えています。県の知名度が低かった香川県では、郷土食のうどんを生かして、2011年から「うどん県。それだけじゃない香川県」のキャッチフレーズの下、県の知名度向上に取り組んでいます。香川県のうどん店では、客自身がつゆをかけたリ薬味をのせたりするのが一般的で、このセルフサービス形式も、讃岐うどんの人気とともに全国に広がりました。

→6 セルフサービス形式の讃岐うどんの店(香川県丸亀市、2019年)



#### 瀬戸内の島々の地域おこし

広島県尾道市<sup>おのみち</sup>と愛媛県今治市<sup>いまばり</sup>を結ぶ瀬戸内しまなみ海道は、瀬戸内海の美しい景色を眺めたり、サイクリングを楽しんだりすることを目的に、国内だけでなく海外からも多くの観光客が訪れています。そのため、瀬戸内しまなみ海道沿いの島々では、農業や漁業の体験、観光船など、豊かな自然を生かした地域おこしが行われています。



↑7 なしの観光農園(鳥取県鳥取市、9月)

#### 深刻な過疎化と情報通信技術

交通網の整備によって各地の観光産業は発展してきましたが、中国山地や四国山地の山間部や瀬戸内海の離島では、ほかの地域よりも早くから過疎化が進んできました。これは、高度経済成長期に瀬戸内の平野部のように工業化しなかったこともあり、進学や就職のために広島市や岡山市、近畿地方などの都市部へと移住する人が多かったためです。その後も若い世代の移住は進み、人口減少や高齢化が深刻になっています。



↑8 「水木しげるロード」で行われたイベント(鳥取県境港市、2018年)

一方、情報通信網の整備によって情報通信技術(ICT)企業を誘致する取り組みもみられます。例えば徳島県では、高速・大容量の情報通信網を県内全域に整備した結果、都市部からの企業誘致が進みました。近年では、働く場所にとらわれずに働くことができるテレワークの先進地域の一つになっています。

✓ 高齢化が進んでいる地域を、図5で確認しよう  
や地図帳で確認しよう。

説明しよう  
島根県や鳥取県では、交通網の整備が観光産業の発展にどのように関わっているのか、説明しよう。



- 2節の問い 見方・考え方 他地域との結びつき(→巻頭8)
- 中国・四国地方での交通網・通信網の整備は、人々の生活や産業にどのような影響を与えているのだろうか。

節の振り返り1 学んだことを確かめ、節の学習内容を振り返ろう 知識 地図帳活用

- A～Iにあてはまる県庁所在地名と、その県名を答えよう。
- ①～④にあてはまる諸島名、山地名、河川名を答えよう。
- ①～⑥にあてはまる語句を、「節の重要語句」から選んで答えよう。

**D** (→p.189)

- 世界文化遺産に登録された原爆ドームなどには、国内各地から多くの修学旅行生が訪れる
- ②であり、核兵器の悲惨さを発信する運動を行っている

**山陰** (→p.186、194～195)

- 高速道路や空港の整備
- 数多くの史跡や文化財、伝統芸能などを生かした観光による①

**③** (→p.190～191)

- 塩田の跡地や遠浅の海岸を埋め立ててつくられた工業地域
- 石油製品の生産に関連する工場が集まる④が立地

**瀬戸内** (→p.186、192～193)

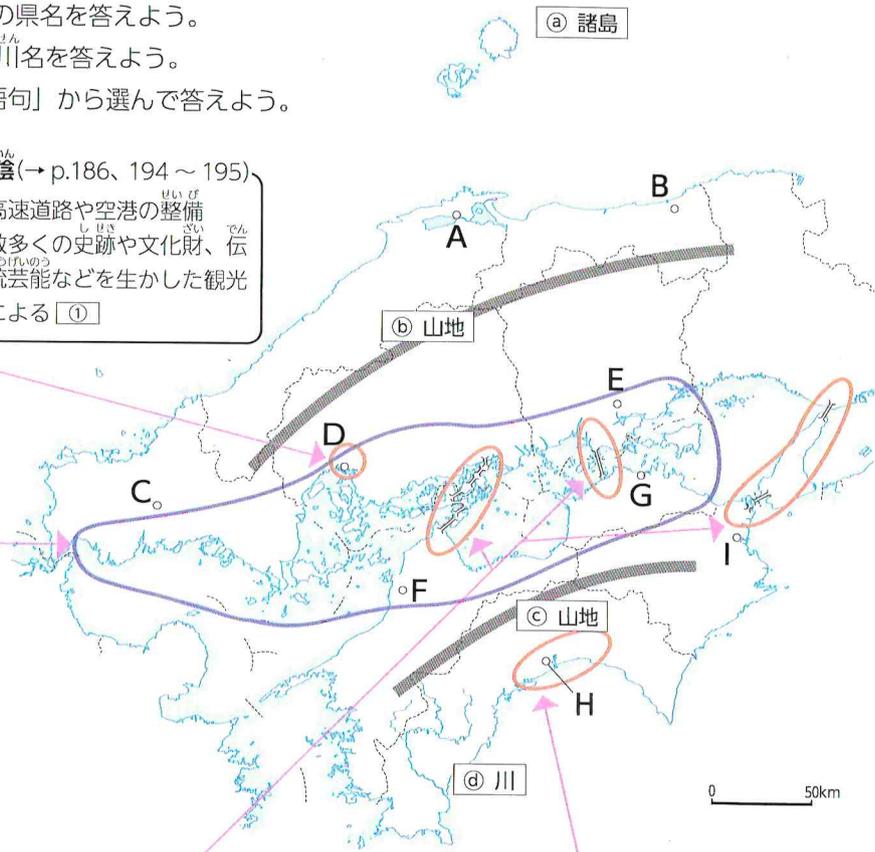
- 日照時間が長く、降水量が少ない気候に適したかんきつ類の栽培が盛ん
- 岡山県の丘陵地では、白桃やマスクットを栽培し、ホンコン(香港)などへも輸出

**⑤** (→p.188～189)

- 橋の開通によって、島では移動手段がフェリーから自動車へと変化
- 移動時間が短縮されて観光客が増加

**高知平野** (→p.192～193)

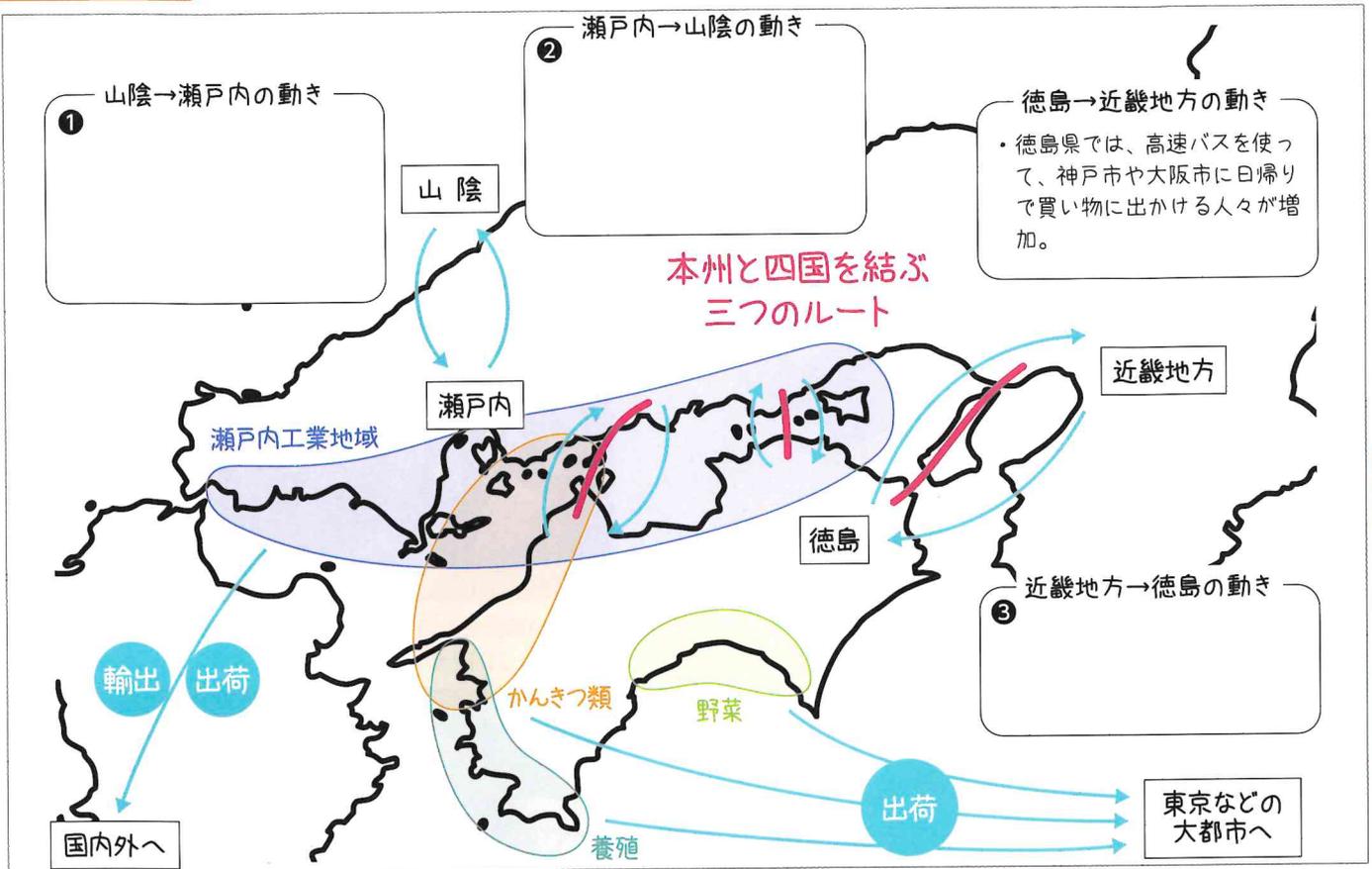
- 温暖な気候を生かして、野菜の⑥が盛ん
- 保冷トラックなどで全国へ出荷



↑1白地図を使ったまとめ

節の重要語句 簡単な説明ができた語句にチェックを入れよう。

- |                              |                                  |                                  |                                       |                                |
|------------------------------|----------------------------------|----------------------------------|---------------------------------------|--------------------------------|
| <input type="checkbox"/> 山陰  | <input type="checkbox"/> 季節風     | <input type="checkbox"/> 平和記念都市  | <input type="checkbox"/> 石油化学コンビナート   | <input type="checkbox"/> 地域おこし |
| <input type="checkbox"/> 瀬戸内 | <input type="checkbox"/> ため池     | <input type="checkbox"/> 瀬戸内工業地域 | <input type="checkbox"/> 促成栽培         | <input type="checkbox"/> 過疎    |
| <input type="checkbox"/> 南四国 | <input type="checkbox"/> 本州四国連絡橋 | <input type="checkbox"/> 石油化学工業  | <input type="checkbox"/> 情報通信技術 (ICT) |                                |



↑ 2 交通網の整備に注目して中国・四国地方をまとめた例

### 1 節の問いについて、図でまとめよう

◆この節の学習を振り返りながら、図2の①～③を埋めて、交通網の整備に注目した中国・四国地方のまとめを完成させよう。

### 2 節の問いについて、考えを深めよう

◆図2をもとに、中国・四国地方の交通網の整備が人々の生活や産業に影響を与えていることが分かる写真と、その写真を補足するための資料(写真やグラフ、地図)を一つずつ、教科書や地図帳、ウェブサイトなどから選ぼう。

◆グループになって、選んだ写真や資料とその理由を発表し合おう。そして、あなたたちだけの「写真で眺める中国・四国地方(→p.184～185)」をつくり、地域の特色を示すタイトルをつけよう。

### 3 節の問いを踏まえて地域の特色をまとめよう

◆図2と2をもとに、中国・四国地方の特色を文章で簡単にまとめよう。

### 2 節の問い

中国・四国地方での交通網・通信網の整備は、人々の生活や産業にどのような影響を与えているのだろうか。

**ヒント1** 中国・四国地方で整備された交通網・通信網の特徴は？

**ヒント2** 交通網・通信網が整備されたことによる恩恵と課題は？

### 振り返り

### 主体的な学び

● 節の問いの解決に向けて主体的に取り組むことが  
よくできた できた あまりできなかった  
 →よくできた点や改善したい点などを書き出そう。

● 節の学習を終えて、新たな疑問や探究したいこと、深めたいことなどを書き出そう。



# もう ちいき 通信網を生かした地域おこしの取り組み

かみやまちょう かみかつちょう  
～徳島県神山町や上勝町の ICT 活用～

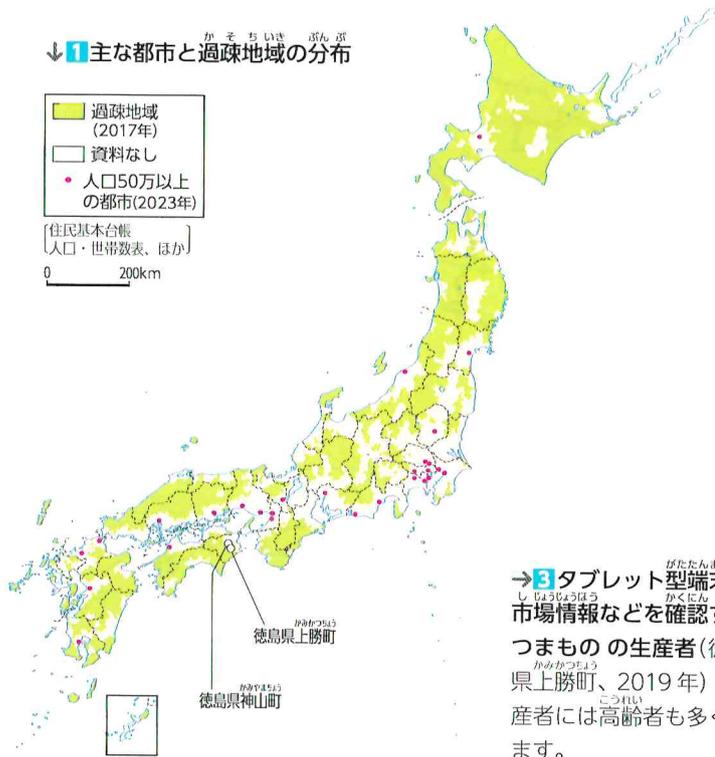
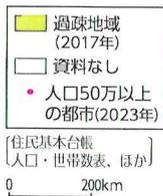
情報・技術



人口集中の続く都市部では、過密による都市問題（→ p.240）を抱える一方で、大都市から離れた山間部や離島のほとんどの地域では、過疎の問題が深刻になって

います（→ p.195）。過疎地域の一つである徳島県神山町や上勝町では、地域おこしのためにどのような取り組みが行われているのでしょうか。

## ↓ 1 主な都市と過疎地域の分布



→ 3 タブレット型端末で市場情報などを確認するつまもの生産者（徳島県上勝町、2019年）生産者には高齢者も多くいます。

人口減少が続く過疎地域（図1）は、住民の高齢化や産業の衰退などの問題を抱えています。これに対して、ほかの地域から人を呼び込み、新たな産業を創出することによって、地域おこしの成果を上げている地域があります。

徳島県の神山町と上勝町は、徳島県東部の山あいにある町で、徳島県特産のすだちなどの産地です。両町とも、徳島市や小松島市の中心部から車で1時間ほどの距離にあり、人口の流出が続いたため、少子高齢化に直面している過疎地域です。

このような過疎地域を多く抱える徳島県は、各市町村と協力してインターネット環境の整備に取り組み、神山町でも光ファイバーを用いた高速通信網（→ p.163）が利用できるようになりました。都市部と変わらないインターネット環境で仕事ができることを企業に呼びかけたところ、東京などの大都市に本社を置く複数の情報通信技術（ICT）企業が、神山町に遠隔拠点（サテライトオフィス）を置くように



↑ 2 古い民家を改修した ICT 企業のサテライトオフィス（徳島県神山町、2017年）



なりました（写真2）。これに加えて、豊かな自然環境を求めて、国内外から神山町への移住を希望する人が増えてきています。移住者が始めたカフェなどは、新しい移住者と地元の人たちとの交流の場にもなっています。

徳島県上勝町では、料理を引き立てるために添えられる季節の葉や花などのつまものを生産する新しい農業が行われています。上勝町では、山間部に点在する農家が互いに情報を共有することができるように、農家どうしをネットワークで結ぶ通信システムを整備しました。各農家は、上勝町内の出荷状況から、遠く離れた都市の市場情報まで、パソコンやタブレット型端末などで確認し、その日に出荷するつまもの種類や量を決めています（写真3）。つまものは、軽量で高齢者や女性でも収穫しやすく、山間部の狭い農地での少量の生産にも向いているのが特徴です。そのため、高齢化が進む山間部などでの地域おこしの好例として、全国から注目されています。